

# 庄内大山騷動と塩野町のお白州

今から一七四年前の天保十五年（一八四四）四月、庄内地方（山形県鶴岡市）にあった天領（幕府領）の七十三ヶ村が庄内藩の預り地になることに天領の農民等が反発して「大山騷動」が起りました。

幕府はすぐさま「関八州廻り」を派遣して五十七人を逮捕・投獄し、各村から差出証人の召喚・入牢を命じました。

そして本格的な取り調べのため、当時は米沢藩の預り地であった越後塩野町に白州と牢屋を設け、江戸から幕府勘定奉行配下の吟味役を派遣しました。

九月から、塩野町では騷動関係者と各村の差出証人が入牢・取り調べを受けました。

特に「総百姓の塩野町登り」といわれた七十三ヶ村の十五〜六十歳のすべての男子約二千五百人も塩野町へ出頭を命じられました。

大山騷動の経過、塩野町での取り調べの様子、合わせて江戸幕府の警察・裁判・刑罰について考えます。



現在の塩野町 当時も出羽街道に沿って家が立ち並んでいたと思われる。

平成 30 年 6 月 23 日（土）

午後 6 時開始（開場は午後 5 時 30 分）

- 会 場 おしやぎり会館（村上市郷土資料館）  
2階展示場
- 講 師 館長 佐藤耕太郎
- 参加費 300 円（資料代）
- 申込み おしやぎり会館 TEL0254-52-1347  
締切 6/19（火）まで



■主催・問合せ おしやぎり会館（村上市郷土資料館）